

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600251		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム 笑顔の村三番地		
所在地	石狩市樽川3条3丁目4番		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成24年1月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177600251&amp;SCD=320">http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177600251&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、心穏やかに充実した日々を送れる様に全職員で取り組んでおり、事業所の理念である「明るく笑顔であいさつ。今出来る事を大切に。安らぎのある日々。」この理念に基づき、近隣の方々に色々と教えて頂きながら、町内の夏祭りや敬老会等に積極的に参加させて頂き、地域の方々との関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の笑顔ある生活、持てる力を活かしながらの生活のため、施設長、管理者、職員一同で、ホームの理念に沿ったケアサービスに力を入れています。特に月1回のミーティングでは、職員からの提案、家族、利用者の希望や要望を踏まえたケアへの取り組みなど、職員間で納得が行くようによく話し合い、きめ細かなサービスを行うよう連携、対応しています。職員の研修なども実践に重点をおき、計画的に参加しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検しううえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域での暮らしや生活を継続出来る様、事業所独自の理念を作り上げている。また、理念に基づいた支援などを常に心掛けている。	会社とホーム独自の理念があります。月1回のミーティングや朝夕の申し送り時などを利用し、理念に沿ったケアサービスになっているか、振り返りや話し合いをして、実践に繋げる努力をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の敬老会等に参加したり、近隣を散歩したり、町内の方々と言葉を交わしたりしている。	町内会に加入し、町内の夏祭りや敬老会、体操などへ、ホームから参加するなど交流を図っています。現在の所在地に移転してから2年程ですが、運営推進会議にも町内会福祉部長の出席を頂き、ホームへの理解と協力を得ています。	高齢者の相談など、ホームの専門性を活かす窓口などの開設で、地域に頼られる場所になるような取り組み（街角相談所）や、近くに幼稚園や小学校などがありますので、子供達との交流なども期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域の皆さんにホームで役立つ事があれば、積極的に協力したいという事を伝えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見をミーティング等で全職員に伝え、話し合い、サービスの向上に繋がっている。	家族、利用者、町内会福祉部長、石狩市職員、地域包括センター職員等で2ヵ月毎に開催しています。行事報告・予定、全館禁煙、食中毒予防、避難訓練等多岐にわたり、活発に討議し、サービス向上に活かすよう努力しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で行われている連絡会議に参加しており、気軽に相談や現状を報告している。	市職員も運営推進会議に出席しており、ホームの状況等は把握しています。生活保護の関係で、ケースワーカーの訪問も3ヵ月毎にあります。市の連絡会議には、施設長、管理者も出席しており、必要に応じて相談や助言を頂く協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルがあり、それを基にミーティング等で研修している。また、全職員が身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止のマニュアルを整備し、職員研修やミーティングなどで、身体拘束の弊害を理解しています。ホームの玄関前の道路は交通量が多く、大型車両などが通過するため、リスクに関し家族と相談のうえ、玄関の施錠はしています。外出などの希望には対応するように努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、虐待やそれに繋がる行為がないか、ミーティングや申し送り等で常に職員は話し合い、研修している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がおり、市で行われる研修に参加したり、勉強会で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、わかりやすく、十分に説明している。また、不安があれば、いつでも連絡が出来る様な関係と体制を契約前から作っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、意見、不満、苦情を気軽に言える様な雰囲気作りを行っている。意見等は、ミーティングで話し合い運営に反映させている。	家族の来訪時を利用し、利用者の生活、身体状況などについて説明と話し合いを行い、家族の要望、意見の把握に努めています。利用者とは日常の関わりから、要望や気持ちなどを把握するようにして、ミーティングで話し合い、それらを運営に反映するよう努めています。	家族、利用者は、運営推進会議に出席していますが、同じメンバーに偏っています。家族は、なかなか直接的には意見など言い出しにくい状況や心情を理解し、アンケートなどで思いや意見を把握するような取り組みを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図る様に努め、職員の意見を聞く機会を作っている。また、個別面談の機会を設け、ホームの運営に反映させている。	普段から話し合いや、ミーティングを行い、職員の意見を聞く機会を設けています。ミーティングノートがあり、開催前に職員から議題の提案を受け、それらを検討し、運営に反映するようにしています。事例では、職員の提案により、全館禁煙の取り組みに努力しています。個別面談では、仕事の内容や資格取得などの相談もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は日常的にホームに来て、職員一人一人に声を掛け、職員の努力や勤務状況を把握しており、時給を上げたり、役職を就け、手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や民間で行われている研修会に参加しており、ミーティング等で全体に報告している。また、実践者研修、実践リーダー研修を計画的に受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市で行われている管理者会議やスタッフ交流会に参加したりし、他の同業者との交流が広がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成担当者が本人と面談し、要望や不安等を聞く機会を設けており、安心して暮らせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時にお会いしたり、面談の際に要望や不安等を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援を行っている。また、早急に対応が必要であれば可能な限り、他のサービス事業者と連携を取り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りやおやつ作りの際に、味付けや調理法を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化があればすぐにご家族に連絡し、利用者の状況等を小まめに伝えたりしている。また、毎月の行事と一緒に参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と電話をしたり、手紙のやりとりをしている。また、地方から面会に来られた方が利用者の居室に泊まる等、関係が途切れない様努めている。	かかりつけ医への受診、電話、手紙、友達の家への訪問、以前からの理容院訪問を受けるなど、馴染みの人や場の関係継続の支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係性を把握しており、一人一人に役割を持って頂き、孤立せずに関わり合える様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も電話をしたり、ホームに遊びに来て頂ける様な取り組みを行っている。病院に入院となった方には、利用者全員と作ったお見舞いの品を持参したり、面会に行ったりしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。困難な場合は、ご家族から情報を得たり、日々の様子を観察し、本人本位に検討している。	生活歴、家族からの情報、日々の生活でのコミュニケーション内容や表情、嫌がることなどから、把握に努めています。担当者やその他職員のモニタリングなども参考にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からお話を聞き、話しやすい環境に配慮しながら、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、異変があれば介護記録、生活記録に記入し、申し送り等で全職員が把握している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わり合いから、本人、ご家族の意見、意向を聞き、職員全体でアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行い、3ヶ月毎に作成している。	利用者の要望、家族からの情報などからアセスメント、担当職員のモニタリング、カンファレンスを通し、利用者が、より良く暮らせるよう計画作成しています。計画に対し、日々の取り組みも細かく記載され、計画見直しに活かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、事業所独自の介護記録に、日々の暮らしや変化をわかりやすく記録している。また、業務日誌や連絡ノート、申し送り等で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関と連携し、訪問診療、緊急時の往診、また、通院等の職員の柔軟な支援をしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じ、訪問理美容、訪問歯科、介護タクシーを利用し、また、ボランティアを受け入れ、三味線や尺八の演奏、手品を披露して頂いている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療の他にも、電話で相談できる体制が整っている。また、ご家族の希望があれば、医師からの病状の説明等をして頂き、良い関係を築いている。	かかりつけ医への受診は、家族または職員対応しています。協力医療機関による月2回の訪問診療があり、年2回の健康診断、インフルエンザ予防注射など、実施し、健康管理と適切な医療受診の支援を行っています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護職員と連携が取れており、医療の活用や日常の健康管理について気軽に相談している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関、協力医療機関、ご家族との連携を密にし、出来るだけ早期退院出来る様に努めている。また、利用者一人ひとりの救急医療情報の書類を作成し、情報交換に活用している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、協力医療機関、ご家族、職員の話し合いの場を設け、慎重かつ適切に対応している。協力医療機関と連携し、チームしての支援が出来る様になっている。	重度化の場合、ホームの方針説明を行い、同意書を頂き、家族、協力医療機関、職員と協議し、チーム連携支援の体制を整えています。以前に看取りの経験があるため、その時の経験を活かして、次のステップに繋げる努力をしています。		ホームでは看取りをする方針がありますので、職員のターミナルケア研修など、体制の準備を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修会に積極的に参加しており、急変時や事故発生時の対応については、マニュアルや連絡網等を整備しており、ミーティング等で研修している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署に協力して頂き、避難訓練を行い、運営推進会議を通して、近隣の方に協力を得られる様に働きかけている。	災害時対応マニュアルを作成し、職員はミーティングなどで研修しています。全職員出席のもと、年2回消防署立会いの避難訓練を実施しています。推進会議などでも討議されており、反省点などを通し、災害時における体制を整える努力をしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りの時は、個々の名前を出さない様にし、浴室や洗面所はカーテンで仕切り、プライバシーに配慮している。	リビングでのミーティングや申し送りをする関係上、個人名など出さないよう工夫しています。利用者に対しては、尊厳ある接遇に努めるよう職員教育をし、言葉かけやプライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立に利用者の要望を取り入れている。また、行事等で欲しい物を選んで頂いたり、食べたい物を選んで頂く等、利用者が自己決定しながら生活出来る様、支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室内で仲の良い利用者同士で談笑したり、音楽を聴いたり、リビングでテレビをみたり、おのおの自由に過ごされている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的になじみの美容室に依頼し、訪問美容をして頂いている。また、外出時に一緒に服を選び、オシャレを楽しんで頂ける様、支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれに食べたい物を聞き、一緒に献立を決め、準備や片付けをして頂いている。また、肉類が食べられない方には別のものを調理している。	利用者の好みを取り入れたメニュー作成し、時には別メニューを用意しています。刻み、とろみ食にも対応しています。出来る方は、職員と一緒に準備や片づけを協働しています。外食や行事食もあり、食事を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記録し、全職員が把握している。また、好みの飲み物等、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の歯科衛生士の指導を受け、一人一人に合った口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握しており、さりげなく声を掛け、気持ち良く排泄できる様、支援している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っています。介護度が高い利用者が多いため、夜間はポータブルトイレやオムツ使用がありますが、昼間はリハビリパンツ、パットなどを使用しながら、排泄の自立支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を飲んで頂いたり、食事は、食物繊維を多く摂るように留意している。また、体を動かす事を日課としている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めていますが、希望の順序や好みの温度に設定し、支援している。	利用者の体調を考慮し、平均週2回の入浴をしています。入浴を拒む場合は、無理に勧めないでタイミングをみて、説得し、気持ち良く入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを把握し、状況に応じて睡眠や休息出来る様、支援している。また、夜間安眠出来る様、日中に適度な運動や散歩等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬がわかる様にファイルしており、職員全体で把握している。また、服薬して症状に変化がある場合は、直ちに協力医療機関に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事、自主的に行っている事を役割として持って頂いている。また、様々なレクリエーションを行い、季節を感じて頂ける様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や意思を考慮し、日常的に散歩等をしている。また、友人の家に遊びに行きたいという方にはスタッフが付き添っている。	天候の良い日は、町内や近くの公園へ散歩しています。その他行事や買い物ツアーなどで、出かける機会を設けています。冬季間の外出はなかなか難しいですが、買い物や食事での外出など、工夫しながら外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じ、少額のお金を管理して頂いている。また、行事として買い物ツアーを行い、欲しい物を選んで頂き、ご本人に支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者は自由に電話している。電話をしたいという希望があれば、プライバシーに配慮し、自室で出来る様、コードレスフォンにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、利用者が書いた書道を展示したり、季節に応じたお花を飾っている。また、利用者が居心地良く生活出来る様な環境整備に、職員はミーティング等で検討し、工夫している。	リビングは明るく、季節の飾りや利用者の書道の作品などを飾っています。利用者は長いすやテーブル席で、それぞれ、ゆったりと過ごしています。キッチン、リビングの方に向かってるので、職員は、作業しながら見守りが出来るようになっています。全体的にスペースのゆとりはありませんが、家庭的な雰囲気があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム横のスペースに椅子とテーブルを置いたり、廊下の奥にソファを置くなどして、思い思いに過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、今まで使っていた物や好みの物を持って来て頂いており、その人らしい居室になっている。	居室には、備え付けのロッカーがあり、収納などに便利になっています。好みの家具や椅子、写真などを持ち込み、それぞれ使いやすく、過ごしやすい居室作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、安全で自立した生活が送れる様な環境を作っている。		